

統計調査ニュース

平成23年（2011）7月

No.296



平成24年経済センサス - 活動調査の実施に向けて

前総務省統計局統計調査部長 西藤 公司

総務省と経済産業省は、平成24年2月に我が国の全ての事業所・企業を対象として経済センサス - 活動調査を実施します。この経済センサス - 活動調査の実施によって、我が国の全産業分野の経済活動の状態を同一時点で網羅的に把握することが初めて可能となるほか、国民経済計算等の諸統計の精度の向上を図ることができます。特に、平成23年の1年間における経済活動を把握する今回の第1回調査は、我が国の経済活動に対する東日本大震災の影響を産業別、地域別に把握し、今後の復興に向けた貴重なデータを提供する大変重要な役割も担う調査となります。

支社等を有する企業と特定の単独事業所については国、都道府県及び市が調査（直轄調査）し、支社等のない単独事業所と新設の事業所については調査員が調査（調査員調査）しますが、この度の東日本大震災で甚大な被害を受け、調査員調査

が困難と判断される地域については総務省からの郵送調査とするなど、被災市町村の意向も踏まえて、被災地域の状況に応じた調査方法で実施することとしています。

直轄調査の対象となる企業の本社には、調査票の送付に先立って本年6月下旬から9月下旬にかけて『事業所等確認票』を順次送付し、支社等の事業内容等の確認を行っています。この事前確認の結果に基づいて、来年1月に各事業所の事業内容に対応した産業別調査票を企業本社にお送りするとともに、直轄調査と調査員調査で重複した調査が行われないよう措置することとしており、調査を正確かつ円滑に実施するための重要な確認となります。

また、調査を正確かつ円滑に実施するためには、調査の意義及び必要性や調査の実施方法などについて十分な周知を図り、事業者の皆様のご理解を得ていくことが重要となります。国においては、テ

レビ、ラジオ、新聞などの全国展開のマスメディアによる広報を重点的に実施するほか、パブリシティを積極的に活用して最大限の広報効果が発揮できるよう取り組んでまいりますが、地方公共団体においても地域の特性を生かした地域密着型の広報を実施していただくようお願いします。

経済センサス - 活動調査の実施までいよいよ200日を切り、調査の実施に向けての本格的な準備が始まっています。正確で信頼できる統計を作成するために、総務省と経済産業省が全力を挙げて取り組むことはもちろんのこと、地方公共団体の御担当の皆様、指導員及び調査員の皆様にも一致協力して業務に当たっていただくようお願いする次第です。そして、調査の対象となられる事業主の皆様には、漏れなく調査に参加していただき、正確な御回答をお願い申し上げます。

目次

平成24年経済センサス - 活動調査の実施に向けて	1	日本人口学会第63回大会に参加して	7
平成21年経済センサス - 基礎調査 確報集計結果の概要	2	統計研修生募集の案内 - 平成23年度第3四半期(平成23年10~12月) -	8
第25回人口センサス会議に参加して	3	平成23年度統計研修受講記	9
平成22年度都道府県別登録調査員研修の実施状況	4	「平成23年春の叙勲及び褒章」	10
子ども震が関見学デーの御案内	5	都道府県発とうけい通信③	11
「なるほど統計学園」の御案内 - 夏休みに向けて -	6		

経済の国勢調査

平成21年経済センサス - 基礎調査 確報集計結果の概要

「経済センサス」は、我が国の経済活動を同一時点で網羅的に把握する統計調査として、事業所・企業統計調査など大規模調査を見直し、新たに創設されました。その第1回目の調査として、平成21年7月に実施した「経済センサス - 基礎調査」の確報集計結果を6月3日に公表しましたので、その概要を紹介します。

1 概況

我が国の事業所数(事業内容等が不詳の事業所を除く)は604万3千事業所、従業者数は6286万1千人

平成21年7月1日現在の総事業所数は、635万6千事業所となっています。このうち、事業内容等が不詳の事業所を除いた事業所数は604万3千事業所、従業者数は6286万1千人となっています。

「個人経営」及び「会社以外の法人」を含む企業等の数は448万1千企業。そのうち「会社企業」は180万6千企業

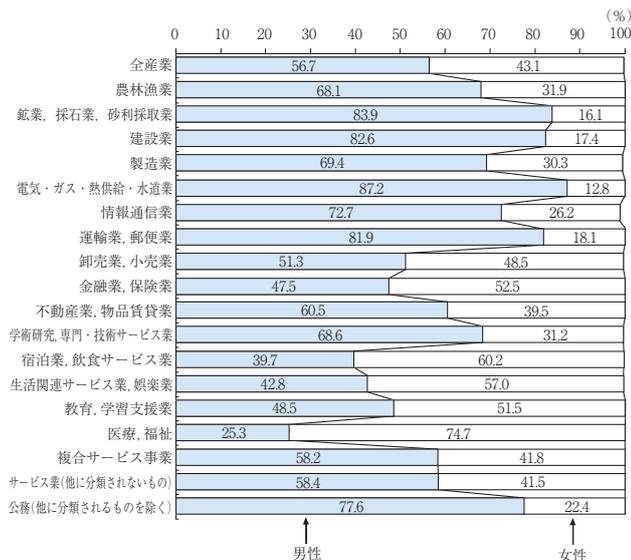
我が国の「個人経営」及び「会社以外の法人」を含む企業等の数は448万1千企業となっています。そのうち、「個人経営」が242万6千企業(企業等全体の54.1%)となっています。「法人」のうち、「会社企業」は180万6千企業(同40.3%)となっています。

2 男女比の状況

従業者数の男女比は、男性が「電気・ガス・熱供給・水道業」、女性が「医療、福祉」で最も高い

産業大分類別に従業者数の男女比をみると、男性は「電気・ガス・熱供給・水道業」(87.2%)、「鉱業、採石業、砂利採取業」(83.9%)、「建設業」(82.6%)、「運輸

図 産業大分類別従業者数の男女比



※ 男女別が不詳の従業者を含むため、男性と女性の比率の合計は、100.0%にならない場合があります。

業、郵便業」(81.9%)などで高くなっています。それに対して女性は「医療、福祉」(74.7%)、「宿泊業、飲食サービス業」(60.2%)、「生活関連サービス業、娯楽業」(57.0%)などで高くなっています。(図)

3 派遣従業者

「派遣従業者数比率」が最も高い産業大分類は「情報通信業」

「別経営の事業所からの派遣従業者数」は167万人、「事業従事者数」に占める「別経営の事業所からの派遣従業者数」の割合(「派遣従業者数比率」)は2.8%となっています。

この「派遣従業者数比率」を派遣先事業所の産業大分類別にみると、「情報通信業」(8.7%)が最も高く、次いで「金融業、保険業」(7.3%)などとなっています。

(表)

表 産業大分類別事業従事者数、別経営の事業所からの派遣従業者数及び派遣従業者数比率(民営)

産業大分類	事業従事者数(A)	別経営の事業所からの派遣従業者数(B)	派遣従業者数比率(%) (B/A)
全産業(公務を除く)	58,789,533	1,670,325	2.8
農林漁業	381,050	5,237	1.4
鉱業、採石業、砂利採取業	31,287	839	2.7
建設業	4,375,590	91,459	2.1
製造業	10,018,706	397,026	4.0
電気・ガス・熱供給・水道業	209,795	8,471	4.0
情報通信業	1,795,820	155,694	8.7
運輸業、郵便業	3,644,361	131,646	3.6
卸売業、小売業	12,810,311	253,858	2.0
金融業、保険業	1,677,139	122,439	7.3
不動産業、物品賃貸業	1,564,246	37,540	2.4
学術研究、専門・技術サービス業	1,810,997	74,156	4.1
宿泊業、飲食サービス業	5,739,001	58,508	1.0
生活関連サービス業、娯楽業	2,762,243	65,857	2.4
教育、学習支援業	1,748,969	34,304	2.0
医療、福祉	5,699,922	89,068	1.6
複合サービス事業	406,172	2,224	0.5
サービス業(他に分類されないもの)	4,113,924	141,999	3.5

※ 結果の詳細については、統計局ホームページの平成21年経済センサス-基礎調査のページ <http://www.stat.go.jp/data/e-census/2009/kakuho/gaiyou/gaiyou.htm> に掲載していますので御覧ください。

第25回人口センサス会議に参加して

統計局統計調査部国勢統計課 眞貝 政也

2011年5月25日(水)～27日(金)に韓国(ソウル)において、第25回人口センサス会議が開催されました。

人口センサス会議は、米国の教育・研究機関である東西センター人口研究所の提唱により、アジア・太平洋諸国及び米国における人口センサスに関する知識・経験を交換することを目的として1971年以来1～2年間隔で開催されている国際会議です。会議には、各国の部局長が出席しており、我が国も毎回出席しています。今回の会議には、川崎統計局長と私の2名が出席しました。

① 今回のテーマ

本年は、「2010年世界人口センサス計画」(2005年～2014年)の中間に当たることから、テーマとして、「人口センサスの実施に関する課題」が選ばれました。

② 会議の概要

10のセッションが開催され、参加国及び国際機関等から27の発表が行われました。各セッションのタイトルは次のとおりです。

- 1 開会式
- 2 基調講演
- 3 センサスの実施の課題
- 4 調査方法
- 5 センサスデータの提供
- 6 インターネット方式の調査
- 7 データ分析、次回に向けた企画
- 8 新たな対応と主な調査結果
- 9 2010年ラウンドの経験と次回に向けて
- 10 まとめ、次回の開催予定



基調講演の様子

③ 日本からの発表

日本からは2本の発表を行いました。この会議では、毎回会長が互選され、次回の会議冒頭で会長が基調講演を行うことが慣例とされています。前回の中国(香港)での会議で、日本の統計局長が会長に選任されていたことから、川崎局長が基調講演を行いました。

セッション2 基調講演

○ 人口センサスの国際動向と新たな課題

総務省統計局長 川崎 茂

「2010年世界人口センサス計画」における世界各国の人口センサスの実施状況が紹介され、各国に共通する課題について解説が行われました。多くの先進国では、調査実施のコストの増大、世帯との接触の困難なケースの増加などの課題があり、従来からの調査票による調査に加えてインターネット方式を導入するなど、調査方法の改善により正確性と効率性の維持・向上に努めていることが紹介されました。

セッション6 インターネット方式の調査

○ 平成22年国勢調査におけるインターネット方式の調査について

総務省統計局 国勢統計課 眞貝 政也

日本の平成22年国勢調査の実施状況について紹介しました。各国でインターネット方式の調査に関心が高まっていることから、東京都を対象として初めて導入したインターネット方式の実施の経験に焦点を当てて紹介しました。

まとめ

参加各国の発表によると、いずれの国でも調査実施コストの増大、プライバシー意識の高まりによる調査への協力意識の低下といった課題を抱えていました。その対応策として、調査票による調査のほかに、複数の調査方式を導入している国が増えています。中でもインターネット方式を導入・検討している国が増加していました。

国勢調査をめぐる課題は、国際的に共通点が多く、日本も次回に向けて検討していかなければならない、と感じました。

次回の第26回会議は、2013年にモンゴル(ウランバートル)で開催の予定です。

法について発表し合うなど、参加者の皆さんの積極的な発言により、活発な議論が行われました。また、問題解決のためのアドバイスなどもあり、今後、調査活動に携わっていく上でのヒントを得られた方も多くおられたのではないかと思います。



「班別意見交換」の様子

アンケート結果

各研修会場では、参加者の皆さんに研修に対するアンケートをお願いしました。

その結果、研修に参加して「大変満足した」又は「満

足した」と答えていただいた方が約9割となっており、全体的に満足されている状況がみられました。

満足した理由としては、「今後の調査活動に役立つ知識などが得られた」、「統計調査について理解を深めることができた」、「他の登録調査員と交流ができた」を挙げる方が多くみられました。

また、「比較的参加しやすい身近なところで研修が開催されたため参加でき良かった」、「研修に参加してみたら、これから統計調査員として経験を積み重ねていく上で参考になった」といった意見や感想も多く寄せられました。

政策統括官（統計基準担当）では、平成23年度も引き続き本研修を実施することとしております。各都道府県・市町村の担当者の御理解と御協力をいただきながら、実りのある研修を行っていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

子ども霞が関見学デーの御案内

今年も、8月17日、18日に、全国の小・中学生を対象とした「子ども霞が関見学デー」が開催されます。

「子ども見学デー」は、文部科学省を始めとした府省庁等が連携して、業務説明や省内見学などを行うことにより、親子の触れ合いを深め、子どもたちが夏休みに広く社会を知る体験活動の機会とするとともに、府省庁等の施策に対する理解を深めてもらうことを目的として開催されています。これに伴い、関係機関や各地方公共団体、民間企業等においても、同様の取組が普及し始めているところです。

平成22年度では、全府省庁等で18,000人余りの参加がありました。統計局は、総務省本館ブース（中央合同庁舎第2号館総務省本館1階ロビー）で開催し、約1,000人を超える参加がありました。本館ブースでは、「なるほど統計学園」の体験コーナー、子ども向け最新統計データの展示、スタンプラリーの設置などを行いました。

今年は、親子で防災や防災教育について考える契機となるような取組についても目的とされています。統計局は、本館ブース（同共用会議室）において開設し、災害地域を示した統計地図の展示、「なるほど統計学園」の体験コーナー、経済センサスキャラクター「ビルくんとケイちゃん」のペーパークラフトの作成などを行う予定です。

大勢のお子様の参加をお待ちしております。

開催日

平成23年8月17日（水）、18日（木）

開催場所

本館ブース：東京都千代田区霞が関2-1-2
中央合同庁舎第2号館総務省本館1階共用会議室

お問い合わせ先

電子メール：g-kouhou@soumu.go.jp

詳しくは統計局ホームページ『なるほど統計学園』を御覧ください。



親子で楽しめる「なるほど統計学園」(平成22年)

※保護者の職場を子どもが参観する取組については、次世代育成支援対策推進法（平成15年法律第120号）に基づき策定された行動計画策定指針により、推進されています。

「なるほど統計学園」の御案内 – 夏休みに向けて –

統計局では、児童・生徒の統計に対する理解が高まるよう、また統計教育を支援するため、ホームページに「統計学習サイト」を掲載しています。現在「統計学習サイト」では、先生向け、高校生向け及び小・中学生向けの三つのサイトを展開しています。

ここでは、小・中学生向けサイト「なるほど統計学園」から、夏休み向けのコンテンツを紹介します。

●自由研究お助け隊（探す・使う・作る）

自由研究のテーマの選び方や進め方を紹介するコーナーです。読みながら簡単に分かるマンガ版と、より詳しく知りたい方向けのテキスト版を用意しています。

<マンガで見る自由研究>

自由研究に悩むレイ君（「なるほど統計学園」生徒役キャラクター）に、なみちゃん（同生徒役キャラクター）がアドバイスをするという筋立てで、自由研究のテーマの選び方や準備の仕方、まとめ方を紹介しています。



<詳しく分かる・自由研究の進め方>

「なるほど統計学園」先生役キャラクターが、より詳しく自由研究の進め方を説明します。レポートや図については、発表することを考慮したまとめ方を紹介しています。また、テーマの例と共に関連する統計データを紹介しています。

●統計をグラフにあらわそう（種類と特徴）（探す・使う・作る）

9種類のグラフについて特徴を紹介しています。あらかず内容によって、どんなグラフが向いているのかを具体例を使用して説明します。自由研究の結果をまとめるときに参考にできます。

●作ってみよう統計グラフ（探す・使う・作る）

棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフを作成できるソフトと都道府県データを塗り分けるための白地図をダウンロードできます。

タイトルはわかりやすいように大きく
かいたのよ
その日にさいた数がすぐわかるように、
あさがおの色ごとにグラフにしたのよ



朝顔の花の咲いた数と気温を日ごとに記録していれば、棒グラフや折れ線グラフを作成できるよ！

そのほかにも、「統計用語辞典（学ぶ・知る）」や「統計・そこが知りたい（学ぶ・知る）」など、統計の知識を身につけられるコンテンツも用意しています。児童・生徒の保護者の方や、統計調査に携わる方にもお楽しみいただけますので、是非御利用ください。

【統計学習サイト（一覧）】

<http://www.stat.go.jp/edu/index.htm>

統計学習サイト

検索



【なるほど統計学園】

<http://www.stat.go.jp/naruhodo/index.htm>

なるほど統計学園

検索



日本人口学会第63回大会に参加して

平成23年6月11日（土）、12日（日）に京都大学（京都府京都市左京区吉田本町）において、日本人口学会第63回大会が開催されました。

日本人口学会は、人口に関する科学的な調査研究を推進し、関連研究者の相互交流を図り、人口学の発展に寄与することを目的としています。人口学の基礎理論や関連する各分野の研究者や学生、人口統計に関連する官庁や企業の実務家などが加入しており、1947年に創設された歴史ある学会です。

今大会では、全国の大学、研究機関、官公庁などから86本の報告が行われ、以下の構成で開催されました。

① 企画セッション

都市・村落関係の歴史人口学
感染症と人口
GISによる地域人口分析の技法と実例

② テーマセッション

人口学と経済学のインタラクション
人口統計制度の最新事情と学術的利用の役割

③ 自由論題報告（第1～11部会）

東アジアの人口、歴史人口、人口政策・人口論、人口学の方法、死亡・疾病、結婚・家族・労働、出生と人口構造、地域人口、人口移動、出生、高齢化、経済人口学

統計局、政策統括官（統計基準担当）、統計研修所及び（独）統計センターは、日本人口学会に団体会員として加入し、大会において研究成果の報告や統計行政への取組の紹介を行うなど、積極的に参加しています。

今大会では、テーマセッション及び自由論題報告として計4本の発表を行いました。

テーマセッション

（人口統計制度の最新事情と学術的利用の役割）

- 人口・世帯統計の整備及び利用の現状と課題
— 国勢調査を中心として
統計局長 川崎 茂
- 平成22年国勢調査における統計分類等の変更について
統計局（国勢統計課） 長尾 悦史

自由論題報告

第7部会（東アジアの人口Ⅲ）

- カンボジアの職業別人口構造
統計研修所（研究官室） 西 文彦

第11部会（出生Ⅲ）

- 同居児法による女性就業者の職業別出生率推計
統計研修所（研究官室） 伊原 一

来年度は、東京大学において開催が予定されています。



大会発表の様子



大会参加者（会場正門にて）

▶▶▶ 統計研修生募集の案内 ◀◀◀

— 平成23年度第3四半期(平成23年10~12月) —

統計研修所では、国・地方公共団体の教員及び政府関係機関の職員を対象として、統計研修生を募集します。

今回の募集に係る研修内容等の詳細については、府省等、都道府県及び市区町村に別途送付する「統計研修生募集要項」又は統計研修所のホームページを御覧ください。また、応募に関する手続については、所属機関の研修担当に御相談ください。

【統計研修所ホームページ(統計研修のページ) <http://www.stat.go.jp/training/1kenshu/1.htm>】

◆ 特別講座「地域分析とGIS(地理情報システム)入門」

【募集人員 36名】

- ・ **研修概要** 地域における少子高齢、人口減少社会の実態を通して、地域分析の基礎知識及び分析手法を習得し、GIS(地理情報システム)を用いて表現することを学ぶ課程
- ・ **研修期間** 平成23年10月5日(水)~10月7日(金) 《3日間》
- ・ **応募締切** 平成23年8月24日(水)
- ・ **研修科目** 地域分析と人口推計の基礎、小地域人口推計と施設配置、小地域での世帯・住宅分析

◇ 専科「PCを用いた統計入門」(10月)

【募集人員 36名】

- ・ **研修概要** PCを用いて、統計の基礎知識、Excelの基本操作、統計グラフの作成、統計データの利用及びGIS(地理情報システム)の基礎知識を学ぶ課程
- ・ **研修期間** 平成23年10月17日(月)~10月21日(金) 《5日間》
- ・ **応募締切** 平成23年8月24日(水)
- ・ **研修科目** 記述統計入門、統計グラフ作成演習、統計データの見方・使い方、統計GIS入門、地図で見る統計、Excelの基本操作

◆ 専科「PCを用いた統計分析」(10月)

【募集人員 36名】

- ・ **研修概要** Excelの統計計算に習熟している職員を対象として、PCを用いて、記述統計の基礎、統計分析手法(回帰分析、主成分分析など)及びGIS(地理情報システム)の基礎知識を、演習を中心に学ぶ課程
- ・ **研修期間** 平成23年10月24日(月)~10月28日(金) 《5日間》
- ・ **応募締切** 平成23年8月24日(水)
- ・ **研修科目** 記述統計演習、多変量解析演習、GIS基礎演習

◇ 特別講座通信研修「統計調査基礎課程(基礎)」(11月)

【募集人員 通信研修50名 うちスクーリング36名】

- ・ **研修概要** 新たに統計業務に従事する職員を対象として、最も基本的な統計知識の習得を目的と

する課程

- ・ **研修期間** [通信研修] 《15日間》
平成23年11月1日(火)~11月22日(火)
[スクーリング](講義のみ) 《2日間》
平成24年2月23日(木)、2月24日(金)
- ・ **応募締切** 平成23年9月26日(月)
- ・ **研修科目** 統計総論、統計データ利用入門、統計調査入門

※職場のパソコンを使用します。「通信研修」のみの受講も可能です。
アクセス時間は、平日8:00~21:00です。

◆ 特別講座「行政評価のための統計的手法」

【募集人員 36名】

- ・ **研修概要** 行政評価に必要とされる統計の基礎知識と理論、データ分析手法の習得を目的とする課程
- ・ **研修期間** 平成23年11月7日(月)~11月10日(木) 《4日間》
- ・ **応募締切** 平成23年9月26日(月)
- ・ **研修科目** 我が国の政策評価の現状と課題、地方自治体の政策評価の現状と課題、地方自治体における行政評価の実例、行政評価と統計、統計データの見方・使い方、行政評価に必要な統計学、アンケートの調査・集計・解析、統計データの解析演習

◎ 特別講座「統計解析ソフトRで学ぶマイクロデータ利用入門」

【募集人員 36名】

- ・ **研修概要** マイクロデータを使用する上での基礎知識と技術の習得及び調査実施機関の職員がマイクロデータを提供する上で考慮すべき点を学ぶことを目的とする課程
(FORTRAN, Cなどによるプログラミング、あるいはVBAなどのマクロかSAS, SPSS, Rなどの統計解析ソフトのスク립トの作成経験のある職員を対象とする)
- ・ **研修期間** 平成23年11月15日(火)~11月18日(金) 《4日間》
- ・ **応募締切** 平成23年9月26日(月)
- ・ **研修科目** 統計解析ソフトウェアR入門、マイクロデータ分析の利点と注意点、マイクロデータ分析の実際

◇ 特別講座通信研修「統計調査基礎課程(基礎)」(12月)

【募集人員 通信研修 50名 うちスクーリング 36名】

- ・ 研修概要 新たに統計業務に従事する職員を対象として、最も基本的な統計知識の習得を目的とする課程
- ・ 研修期間 [通信研修] 《15日間》
平成23年12月1日(木)～12月21日(水)
[スクーリング](講義のみ) 《2日間》
平成24年2月23日(木), 2月24日(金)
- ・ 応募締切 平成23年11月1日(火)
- ・ 研修科目 統計総論, 統計データ利用入門, 統計調査入門

※職場のパソコンを使用します。「通信研修」のみの受講も可能です。
アクセス時間は、平日8:00～21:00です。

◇印は、Excelで四則演算など基本的なパソコン操作ができる職員を対象とした課程

◆印は、ExcelでAVERAGEなどの関数やピボットテーブルなどのパソコン操作ができる職員を対象とした課程

◎印は、プログラミング又は統計解析ソフトのスク립トの作成経験がある職員を対象とした課程

〈お問い合わせ先〉

統計研修所企画課企画係

TEL (03) 5273-1289 FAX (03) 5273-1292

平成23年度統計研修受講記

特別講座「一般職員課程」を受講して

安城市企画部経営管理課 原 史子

私は、昨年4月、安城市役所に入庁し、本年度より統計の主担当となりました。所属している部署は、行政改革の主管でもあり、普段は統計と他の業務を兼務しています。統計実務を行う上で、日頃から幅広い知識の必要性を感じており、今回、初めて本研修所の講座に参加させていただきました。

この講座では、「統計の意義・役割」、「統計調査入門」、「統計グラフの基礎」、「統計学入門」、「統計データの見方」、「雇用・失業問題と労働統計」、「景気動向と経済統計」及び「人口問題と人口統計」という科目があり、統計に関する基礎的な知識が網羅された内容でした。

講座に参加する前は、文系の自分にも理解できる内容か少し不安を抱いていましたが、実際に受講してみると、先生方の丁寧で分かりやすい説明のお陰で、今まで理由が分からずもやもやしていたことがクリアになり、これまで行ってきた統計業務での疑問点をいくつか解消することができました。特に印象に残っているのは、全数調査がなぜ必要かということと、行政記録と統計調査の相互利用がなぜされていないのかという二点において、理由が理解できたことです。全数調査の必要性については、標本調査を行うための母集団を把握したり、小地域での細かなデータを少ない誤差で得るためということが分かり、非常に納得できました。また、行政記録と統計調査の相互利用については、例えば経済センサス

では、事業所母集団データベース(ビジネスレジスター)の構築によって実用に向けた整備が進められていることを知り、大変興味深く感じました。

このほか、講座では、労働力調査や国勢調査などの具体的な事例を用いて、統計学や統計調査の解説がありました。また、普段よく目にする棒グラフや折れ線グラフを始めとした代表的な統計グラフの種類と適切な選び方、作成方法について知ることができ、間違ったデータの見せ方や見方に注意しなければならぬことを学びました。さらに、近年の雇用問題や景気動向の山と谷の判断に関する解説、人口の定義や人口問題について解説を聞くこともできました。講師の先生の中には、統計研修所の方だけでなく、大学教授や民間の研究所等に所属されている先生もおられ、専門家の意見を伺う貴重な経験となりました。

また、研修には全国各地から、国や県、市町村の垣根を越えて様々な統計担当職員が参加しており、これまであまり交流する機会がなかった方と情報交換をする良い機会ともなりました。今後は、研修で得た統計に関する知識や情報等を所属部署でも共有し、今後の業務に役立てていきたいと思っております。

最後に、4日間という短い期間ではありましたが、本研修で大変お世話になりました講師の先生方、統計研修所の皆様方に、この場をお借りして御礼申し上げます。

「平成23年春の叙勲及び褒章」

政府は、4月29日の昭和の日に、「春の叙勲及び褒章」の受章者を発令しました。

総務省では、6月29日にグランドアーク半蔵門において褒章伝達式を、7月5日に東京プリンスホテルにおいて叙勲伝達式を行い、受章者に褒章及び勲章が伝達されました。また、受章者は伝達式後、皇居において天皇陛下に拝謁しました。

総務省における統計関係では、永年にわたり国勢調査を始め各種統計調査に調査員として従事し、調査実施に多大な貢献をした次の方々が、勲章及び褒章の榮譽に浴されました。栄えある受章にお祝い申し上げます。

【勲章受章者】 ※ 敬称略

○瑞宝双光章
 吉田 義久 (秋田県)
 ○瑞宝单光章
 上 輝雄 (北海道)
 川崎 信道 (北海道)
 吉田 忠治郎 (北海道)
 伊藤 光勇 (北海道)
 太田 米藏 (北海道)
 大平 昭一 (北海道)
 大山 一美 (北海道)
 下川 勝治 (北海道)
 中脇 満 (北海道)
 南保 清作 (北海道)
 沼田 初太郎 (北海道)
 野田 孝正 (北海道)
 河村 克政 (青森県)
 斉藤 綏子 (岩手県)
 森田 隆 (岩手県)
 阿部 優 (宮城県)
 小野寺 達雄 (宮城県)
 戸村 和郎 (宮城県)
 大井 清 (秋田県)
 神馬 チエ (秋田県)
 原 飛行弘 (秋田県)
 伊藤 俊作 (山形県)
 江田 二三男 (福島県)
 三浦 郁夫 (福島県)
 浅川 信一 (茨城県)
 大川 昇一 (茨城県)
 大久保 俊 (茨城県)
 加藤 寛 (茨城県)
 古宇田 常夫 (茨城県)
 高橋 三雄 (茨城県)
 勝山 美智子 (群馬県)
 小山 和子 (埼玉県)
 秋山 みね (千葉県)
 飯塚 昭一 (千葉県)
 佐久間 富士男 (千葉県)
 長谷川 登 (千葉県)
 佐熊 とよ子 (東京都)
 須崎 榮八朗 (東京都)
 荒山 四郎 (東京都)
 竹内 栄一 (東京都)
 村上 富美子 (東京都)
 河野 博 (神奈川県)
 佐保田 キミ子 (神奈川県)
 南部 博 (新潟県)
 羽鳥 二三子 (新潟県)
 村上 恵美子 (富山県)
 村井 輝義 (福井県)

宮島 禮子 (長野県)
 荒井 秀子 (岐阜県)
 飯田 和子 (愛知県)
 井澤 咸子 (愛知県)
 西村 いそ子 (京都府)
 富田 隆彦 (大阪府)
 川端 順子 (大阪府)
 堤 キヨ (大阪府)
 鉄谷 玲子 (大阪府)
 大西 京子 (兵庫県)
 坂本 千鶴子 (鳥取県)
 眞玉 小夜子 (島根県)
 藤田 要 (香川県)
 古庄 文子 (福岡県)

【褒章受章者】 ※ 敬称略

○藍綬褒章
 安藤 隆夫 (北海道)
 岩田 實 (北海道)
 坂部 貞二 (北海道)
 佐々木 博 (北海道)
 関 寅義 (北海道)
 高橋 徳見 (北海道)
 高橋 米吉 (北海道)
 仲野 成男 (北海道)
 長谷川 数雄 (北海道)
 平井 うめ (北海道)
 前野 義男 (北海道)
 奥 豊子 (北海道)
 松井 道子 (北海道)
 及川 信義 (岩手県)
 小林 義一 (岩手県)
 高森 日出男 (岩手県)
 石川 泰子 (岩手県)
 浦部 寛子 (岩手県)
 阿部 昌利 (宮城県)
 佐々木 久雄 (宮城県)
 佐藤 滋 (宮城県)
 高橋 ヒデ (宮城県)
 森 敏 (宮城県)
 本間 廣子 (宮城県)
 小坂 勉 (秋田県)
 遠藤 貞雄 (山形県)
 岡田 善弘 (山形県)
 勝見 榮郎 (山形県)
 高木 みはる (山形県)
 町田 セツ (山形県)
 氏家 スミ (福島県)
 佐藤 秀信 (福島県)
 鈴木 幸助 (福島県)
 戸田 儀秋 (福島県)
 佐藤 和子 (福島県)
 浅野 甲子 (茨城県)
 江連 作雄 (茨城県)
 岡本 保 (茨城県)
 神賀 寛 (茨城県)
 小林 暹 (茨城県)
 長洲 博文 (茨城県)
 古谷野 勉 (茨城県)
 松山 榮一 (茨城県)
 松本 美保次 (群馬県)
 宮坂 範子 (群馬県)
 栗飯原 孝子 (埼玉県)
 勝間田 繁子 (埼玉県)
 島田 忠 (千葉県)
 根岸 アサエ (千葉県)
 岡澤 英子 (千葉県)
 伊藤 幹夫 (東京都)
 鈴木 正一 (東京都)
 鈴木 セン (東京都)
 石田 賀代子 (東京都)
 植村 郁子 (東京都)
 倉澤 壽子 (東京都)
 田中 静子 (東京都)
 與倉 京子 (東京都)
 姉崎 久 (新潟県)
 中川 敏正 (富山県)
 今村 美知子 (富山県)
 宮本 悠紀子 (石川県)
 嶋田 明盛 (福井県)
 須綱 千枝子 (福井県)
 中楯 好子 (山梨県)
 松坂 智恵子 (長野県)
 丸山 たつ子 (長野県)
 宮部 とし子 (岐阜県)
 山下 正子 (静岡県)
 黒田 信也 (三重県)
 氏家 啓子 (京都府)
 松山 良枝 (京都府)
 中井 芳子 (大阪府)
 宮谷 秋代 (大阪府)
 菊本 肇子 (兵庫県)
 高木 涼子 (兵庫県)
 林 延子 (兵庫県)
 北野 茂美 (和歌山県)
 田中 あい子 (鳥取県)
 末安 敬子 (福岡県)
 三苫 節子 (福岡県)
 宮崎 順子 (福岡県)
 高園 千佳子 (佐賀県)
 城間 美好 (沖縄県)
 豊見里 治子 (沖縄県)

都道府県発とうけい通信③

兵庫じまん

兵庫県企画県民部統計課

来年のNHK大河ドラマは松山ケンイチさん主演の「平清盛」です。

平清盛と兵庫県は縁が深く、平安時代末期に平清盛は京都から福原(現在の神戸市兵庫区)に都を移しました。福原に都があったことをしのばせるものの一つに「雪見御所(ゆきみのごしょ)」があります。これは、平清盛の邸宅で、現在は石碑が建てられています。

雪見御所というおしゃれな名前からの想像ですが、雪を見ながらお酒を楽しんだのでしょうか。

お酒と言えばいろいろな種類がありますが、兵庫県は日本酒が自慢です。

酒処として有名な灘五郷は、神戸市灘区から西宮市までの沿岸部の地域をいいます。この地域は、酒造りに適した水(宮水)と米(山田錦)、どちらも良質のものが手に入り、水上輸送に便利な港があったことから、日本酒の名産地として栄えています。

灘五郷以外にも北は美方郡から南は南あわじ市まで県下全域に蔵元があり、テレビコマーシャルで有名なブランドから、地元の人のみぞ知る地酒までたくさんあります。

統計データで見ると、清酒の出荷量は年間242,510キロリットル(全国シェア32.8%・経済産業省平成22年工業統計表)で東京ドーム約196個分、出荷額は約1,287億円(全国シェア28.2%・経済産業省平成22年工業統計表)で出荷量、出荷額とも全国第1位です。

また、清酒かすの出荷額約17億円(全国シェア34.1%・経済産業省平成22年工業統計表)、日本酒の原料となる醸造用玄米の生産量19,744トン(全国シェア27.8%・農林水産省平成21年産米の検査結果)も全国第1位です。



見学のできる蔵元

お酒の苦手な方は、スイーツはいかがでしょう。

慶応3年(1868年)に開港した神戸港は、様々な外国の文化を受け入れてきました。その中の一つが洋菓子です。

神戸・阪神間を中心に洋菓子文化は根付いており、住宅街の中にあるケーキ屋さんが大人気だったりします。

兵庫県の洋菓子屋さんのケーキや木の年輪に似た焼き菓子バウムクーヘン、ガラス容器に入ったプリンなどを食べたことのある方も多いと思います。

その洋生菓子ですが、出荷額は約488億円で全国第2位(全国シェア6.8%・経済産業省平成22年工業統計表)です。

消費でも1世帯当たりのケーキに対する年間の支出額は9,030円で全国第2位、他の洋生菓子は10,798円で全国第1位(総務省家計調査(二人以上の世帯)都道府県庁所在地及び政令指定都市別ランキング(平成20~22年平均))となっています。



神戸の洋菓子屋さんのケーキ

今回は、統計を意識して日本酒と洋菓子を自慢しました。

統計には出ませんが、兵庫県には神戸牛や明石蛸(あかしたこ)を始め、他にも自慢出来る食べ物がいっぱいあります。夏休みには、御家族や友人と是非兵庫県に遊びに来て食べ歩きを楽しんでみてはいかがでしょうか。

兵庫県だけのグルメでは物足りない方は、「第6回B級ご当地グルメの祭典! B-1グランプリ in HIMEJI」に遊びに来てください。世界遺産に登録されている姫路城周辺で平成23年11月12日(土)、13日(日)に開催されます。

<http://www.b1-himeji.jp/index.html>

食べ物以外にも自慢したいことがいっぱいありますので、兵庫県ホームページに掲載されている「兵庫県概要 2011年・付録」を御覧いただけたらと思います。

http://web.pref.hyogo.jp/ac08/ac08_1_000000492.html

最近の数字

		人口		労働・賃金			産業		家計 (二人以上の世帯)		物価		
		総人口 (推計による人口)	就業者数	完全失業率 (季調済)	現金給与総額 (規模30人以上)	鉱工業 生産指数 (季調済)	サービス産業 の月間売上高	1世帯当たり 消費支出	1世帯当たり 可処分所得 (うち勤労者世帯)	消費者物価指数		国内企業 物価指数	
		千人 (Pは万人)	万人	%	円	H17=100	兆円	円	円	全国 H17=100	東京都区部 H17=100	H17=100	
実数	H23. 1	128019	5941	4.9	303,301	96.2	21.6	289,191	350,363	99.4	98.6	103.9	
	2	P12737	5950	4.6	294,764	97.9	P20.6	260,793	396,810	99.3	98.5	104.1	
	3	P12796	5928	4.6	308,743	82.7	P24.9	293,181	351,258	99.6	98.8	104.7	
	4	P12797	5994	4.7	302,655	84.0	P21.8	292,559	375,329	99.9	99.1	105.6	
	5	P12793	6019	4.5	P304,005	P88.8	...	276,159	310,021	100.0	99.0	P 105.5	
	6	P12795	P98.9	...	
前年同月比	H23. 1	-	0.0	* 0.0	1.5	* 0.0	-1.8	-1.0	-3.4	0.0	0.0	1.5	
	2	-	0.6	* -0.3	1.2	* 1.8	P-4.2	-0.2	1.4	0.0	-0.1	1.7	
	3	-	-0.2	* 0.0	0.4	* -15.5	P-8.7	-8.5	-3.2	0.0	-0.2	2.0	
	4	-	0.1	* 0.1	-1.5	* 1.6	P-7.3	-3.0	-2.8	0.3	-0.1	2.5	
	5	-	0.1	* -0.2	P1.9	* P5.7	-	-1.9	-3.6	0.3	-0.1	P2.2	

注) P:速報値 * :前月比
 総人口の2月は平成17年国勢調査を基準とした値、1月及び3月以降は平成22年国勢調査人口速報集計を基準とした値
 就業者数及び完全失業率は岩手県、宮城県及び福島県を除く全国の結果
 家計(二人以上の世帯)の前年同月比は実質値



統計局・政策統括官(統計基準担当)・統計研修所の主要行事日程(2011年7月~8月)

時期	行事等の概要	時期	行事等の概要
7月1日	労働力調査(基本集計)平成23年5月分(速報)公表	5日	小売物価統計調査(自動車ガソリン:平成23年7月分)公表
〃	消費者物価指数(全国:平成23年5月分,東京都区部:平成23年6月分(中旬速報値))公表	12日	家計調査(家計収支編:平成23年4~6月期平均速報)公表
〃	家計調査(二人以上の世帯:平成23年5月分速報)公表	〃	家計調査(家計消費指数:平成23年6月分及び平成23年4~6月期)公表
〃	小売物価統計調査平成23年5月分(東京都区部:平成23年6月分)公表	〃	家計消費状況調査(ICT関連項目:平成23年4~6月期,支出関連項目:平成23年6月分及び平成23年4~6月期)公表
4日	統計研修 専科「国民・県民経済計算」開講(~8日)	〃	平成22年基準 消費者物価指数(平成22年1月分から平成23年6月分までの平成22年基準準拠及び結果及び接続指数)公表
5日	家計消費状況調査(支出関連項目:平成23年5月分速報)公表	16日	労働力調査(詳細集計)平成23年4~6月期平均公表
8日	東日本大震災の人口移動への影響(住民基本台帳人口移動報告(平成23年3~5月期)の結果から)公表	17日	総合統計データ月報(8月更新分)
〃	小売物価統計調査(自動車ガソリン:平成23年6月分)公表	中旬	個人企業経済調査(動向編)平成23年4~6月期結果(速報) - 今季の業況判断及び来期の見通し - 公表
〃	第46回統計委員会	22日	人口推計(平成23年3月1日現在確定値及び平成23年8月1日現在概算値)公表
〃	統計研修 特別講座「統計調査基礎課程<基礎>(7月通信研修)開講(~29日)	〃	「PSI月報(8月)」刊行
11日	統計研修 専科「PCを用いた統計入門」開講(~15日)	25日	統計研修 特別講座「統計調査基礎課程<基礎>(8月スクーリング)開講(~26日)
12日	個人企業経済調査(構造編)平成22年結果公表	26日	平成22年基準 消費者物価指数(全国:平成23年7月分,東京都区部:平成23年8月分(中旬速報値))公表
15日	家計調査(家計消費指数:平成23年5月分)公表	〃	小売物価統計調査平成23年7月分(東京都区部:平成23年8月分)公表
〃	家計消費状況調査(支出関連項目:平成23年5月分速報)公表	29日	住民基本台帳人口移動報告(平成23年7月分)公表
20日	人口推計(平成23年2月1日現在確定値及び平成23年7月1日現在概算値)公表	〃	サービス産業動向調査(平成23年6月分速報,平成23年4~6月期速報,平成23年3月分速報,平成23年1~3月期速報及び平成22年度速報)公表
21日	総合統計データ月報(7月更新分)	30日	労働力調査(基本集計)平成23年7月分(速報)公表
22日	第47回統計委員会	〃	家計調査(二人以上の世帯:平成23年7月分速報)公表
25日	住民基本台帳人口移動報告(平成23年6月分)公表	下旬	個人企業経済調査(動向編)平成23年4~6月期結果(速報)公表
〃	統計研修 専科「人口推計」開講(~29日)	〃	「Statistical Handbook of Japan 2011」刊行
26日	「PSI月報(7月)」刊行	この記事引用する場合には、下記にあらかじめ御連絡ください。	
28日	サービス産業動向調査(平成23年5月分速報及び平成23年2月分速報)公表	編集発行 総務省統計局 〒162-8668 東京都新宿区若松町19-1 総務省統計局総務課広報担当 TEL 03-5273-1120 FAX 03-5273-1010 E-mail g-kouhou@soumu.go.jp ホームページ http://www.stat.go.jp/ 御意見・御感想をお待ちしております。	
29日	労働力調査(基本集計)平成23年6月分及び平成23年4~6月期平均(速報)公表		
〃	消費者物価指数(全国:平成23年6月分,東京都区部:平成23年7月分(中旬速報値))公表		
〃	家計調査(二人以上の世帯:平成23年6月分速報)公表		
〃	家計調査(貯蓄・負債編:平成23年1~3月期平均)公表		
7月中	小売物価統計調査平成23年6月分(東京都区部:平成23年7月分)公表		
	平成22年国勢調査 人口等基本集計結果(岩手県,宮城県及び福島県)公表		
8月1日	統計研修 専科「経済予測」開講(~5日)		
5日	家計消費状況調査(支出関連項目:平成23年6月分及び平成23年4~6月期速報)公表		